

コロナ禍の社会を どう読むか

— 女性たちの現在^{いま}

2020年初頭から続く新型コロナウイルスの流行は、いまだに収束していません。コロナ感染への不安は、誰にとっても「他人事」ではありません。

「市民アーカイブ多摩」（裏面参照）に届く、さまざまなミニコミからは、これまでも制度不備により生きづらさを強いられてきた人びとに、ウイルスとそれに伴う政策が、さらに重くのしかかっていることが伝わってきます。

竹信三恵子さんは、女性や若者、非正規・不安定雇用など、労働現場がかかえさせられている問題を、長年にわたり指摘しつづけ、「見える化」してこられました。そして現在も、取材・広報活動を続けています。

お互いの状況がさらに見えにくくなっている現在、竹信さんに見えている今の社会・現場を語っていただき、共に考え、話し合いたいと思います。同時に、竹信さんが長年の活動で培ってこられた、社会問題や現場の状況を把握する時に信頼できる情報探索の方法や使い方・資料の読み取り方などについても伺います。

ご参加、お待ちしております。

講師：竹信三恵子さん
(ジャーナリスト・和光大学名誉教授)



要申込み
先着75人
参加費
500円
(会員無料)

2021年 **5月23日** (日) 午後**1時30分**～**4時30分** (開室1:15)

会場：**たましん RISURU ホール** (立川市民会館) 5階 第1会議室
(立川駅南口歩12分・西国立駅歩8分、裏面に地図)

主催・申込み先： **ネットワーク・市民アーカイブ**

tel: **042-540-1663**

E-mail: simin-siryo@nifty.com <http://www.c-archive.jp/>

会場案内図



たましん RISURU ホール

立川市錦町 3-3-20 TEL: 042-526-1311

JR 中央線立川駅南口より徒歩 13 分

JR 南武線西国立駅より徒歩 8 分。

多摩モノレール立川南駅より、徒歩 12 分。

講師：竹信三恵子さん

1976 年、朝日新聞社に入社。同社編集委員兼論説委員、和光大学現代人間学部教授などを経て、2019 年 4 月から同大名誉教授兼フリージャーナリスト。

ジェンダー差別や労働について報道を続け、「貧困や雇用劣化、非正規労働者問題についての先駆的な報道活動」に対し 2009 年、貧困ジャーナリズム大賞。

著書に『ルポ雇用劣化不況』（岩波新書、日本労働ペンクラブ賞受賞）、『家事労働ハラスメント』（岩波新書）など。

近著に『企業ファースト化する日本～虚妄の＜働き方改革＞を問う』（岩波書店）。

市民活動資料室「市民アーカイブ多摩」ご案内

- ・開館日：毎週水曜日、第 2・4 土曜日（年末年始と 8 月中旬は休館）
- ・開館時間：午後 1 時～4 時 ・入館カンパ：100 円～
- ・所在地：東京都立川市幸町 5-96-7（多摩モノレール、西武線「玉川上水駅」南口徒歩 8 分）
- ・電話& fax：042-536-5535（開館中のみ）
- ・見られる資料：市民活動団体や個人が発行しているミニコミ（通信や会報など）1800 タイトルほか
- ・ホームページにミニコミのタイトル、発行団体を掲載。http://www.c-archive.jp/
- ・運営：ネットワーク・市民アーカイブ